

プラスファ通信



今月のテーマ

いよいよ消費税10%時代へ！

2019年10月1日、いよいよ日本でも消費税率が10%となる時代が到来いたしました。詳細は触れませんが、何が変わるのかチェックしていきましょう。

①軽減税率の導入

日本で初めて軽減税率制度が導入されます。ですが、皆様もご認識の通り、いやはや悪法ともいべき制度で、かなりの混乱が予想されます。皆様からご提供いただく資料についても、改めて8%軽減税率対象のものについては明確に区分けしていただく必要がありますのでご協力よろしくお願いたします。

②ポイント還元制度等

キャッシュレス決済のポイント還元制度や、子育て世帯などが対象のプレミアム付き商品券の利用が始まります。必要な手続きや情報収集は済ませましたか？

③家計への影響

10月以降の家計への影響を世帯構成別に試算すると、幼児教育・保育無償化の対象となる子育て世代は恩恵が大きく、負担が月2万～3万円減る見通しです。一方で、子育て世代以外は、消費税増税による家計負担感が否めません。

④景気への影響

大手外食チェーンの増税後の価格設定の対応がおおむね出そろいました。例えば、日本マクドナルドは、10月から消費税が10%に上がる店内飲食と税率が8%に据え置かれる持ち帰りについて、税込み価格をそろえると発表しました。10%とする店内飲食を実質値下げするということです。増税分2%を実質的に値下げしてでも客離れを防ぐ狙いですが、コスト吸収に向けて生産体制の見直しや販売増加に取り組みますが、各社は消耗戦を強いられそうです。

物価の押し下げに繋がることが心配されます。

🗨️ これからの新次第に必要な能力とは！？

先日勧められて読んだ本が、とても刺激的だったのでご紹介します。『世界のエリートはなぜ美意識を鍛えるのか？』で有名な、山口周さんの『ニュータイプの時代』（ダイヤモンド社）です。この本の言うところは、20世紀の後半から21世紀の初頭にかけて高く評価されてきた、従順で、論理的で、勤勉で、責任感の強い、いわゆる「優秀な人材」は、今後「オールドタイプ」として急速に価値を失っていくということです。

一方、このようなオールドタイプに対置される、自由で、直感的で、わがままで、好奇心の強い人材＝「ニュータイプ」が、今後は大きな価値を生み出し、評価され、「豊かな人生」を送ることになると言います。

特に印象的だったのが、「役に立つ」ものと「意味のある」ものの区分けについてでした。現在の市場では、その市場が「役に立つ」という便益を提供しているのか、あるいは「意味がある」という便益を提供しているのかによって別れることになる。「役に立つ」市場では評価指標がごく少数に収縮してしまうので、グローバル化の進行に伴ってごく少数の勝者による総取りが発生する一方、顧客便益が多様な「意味がある」市場においては多様化が進むことになる。1つ例えを出してみると、コンビニにおいて、棚の管理は極めて厳密に管理されており、基本的には1品目について1商品しか置いていないことを理解されていますか？そんなコンビニにおいても、1品目で200種類以上の商品が並んでいるものがあります。それはタバコです。なぜそういうことが起きるかという、タバコは「役に立たないけど、意味がある」からです。ある銘柄を持つ固有のストーリーや意味は他の銘柄では代替できないのです。（私は昔、赤のマルボロしか吸いませんでした。理由は木村拓哉が吸っていたからです（笑））日本企業の多くはこれまで「役に立つ」市場において存在感を示してきたが、さらに競争が加速していく環境下においても、ひらすらに「役に立つ」ことで価値を生み出そうとし続けるのはオールドタイプの思考様式となりつつある。一方で、ニュータイプはいち早く「意味がある」市場へのシフトし、ユニークな「意味のポジション」を築くことで、高い収益と安定的な基盤を築こうとする、というものです。人材の育成も同じで、これからの人材は、意味のある仕事に対してモチベーションを持続させます。一方で、意味のない数字に対する目標やKPIに対してモチベーションをキープさせるのは至難の業です。この「役に立つ」ものか「意味がある」ものか、という問いかけについては私は非常に考えさせられるものがありました。

一見、あまり世間から受け入れられないような印象のある「ニュータイプ」の人間が革命を起こしていくのか否かはわかりませんが、時代の変化に合わせて、必要とされる能力も変化していているということは非常に興味深いお話でした。皆様は、オールドタイプ？それともニュータイプ？